（様式１）

ICT活用工事計画書

|  |  |
| --- | --- |
| 工　事　名 |  |
| 受 注 者 名 |  |
| 発注方式 | * 発注者指定型（試行）　□　施工者希望型　　□　ICT活用工事として発注された工事以外 |
| 工種 | * 土工　□　土工1,000m3未満　□　小規模土工　□　作業土工（床掘） * 付帯構造物設置工　□　舗装工　□　舗装工（修繕工）　□　法面工 |
| ICT技術の活用による効果 | 施工者希望型のうち一部の段階においてICT施工技術を活用する場合、もしくはICT活用工事として発注された工事以外に該当する場合に選択する。   * 安全性向上　　　　　　　　　　□　内製化による３次元設計データの利活用 * 作業期間や人員削減 |
| ICT 技術を活用  する工事数量 |  |

当該工事において活用する技術について、「採用番号」欄に該当プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、プロセスの各段階において、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「☑」と記入する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | | 種別・項目など | | 採用番号 | 番号・技術名 |
| □ | １　３次元起工測量 | ― | |  | １ 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量  ２ 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量  ３ ТＳ等光波方式を用いた起工測量  ４ ТＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量  ５ RTK－GNSSを用いた起工測量  ６ 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量  ７ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量  ８ その他の３次元計測技術を用いた起工測量  （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い |
| □ | ２　３次元設計データ作成 | □　内製化 | | | ※３次元出来形管理に用いる３次元設計データの作成を実施しなければならない |
| □ | ３　ICT建設機械による施工  ※法面工、付帯構造物設置工は対象外 | □ | 掘削工 |  | １ ３次元ＭＣ技術（ブルドーザ）  ２ ３次元ＭＣ技術（バックホウ）  ３ ３次元ＭＧ技術（ブルドーザ）  ４ ３次元ＭＧ技術（バックホウ）  ５ ３次元ＭＣ（モータグレーダ）  ６ ３次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械  ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲については、受注者の協議により決定する  ※当該工事に含まれる、左記工種のいずれかでICT建設機械を活用すれば良い |
| □ | 盛土工 |  |
| □ | 路体盛土工 |  |
| □ | 路床盛土工 |  |
| □ | 法面整形工 |  |
| □ | 作業土工  （床掘） |  |
| □ | 路盤工 |  |
| □ | 切削オーバーレイ工 |  |
| □ | 路面切削工 |  |
| □ | ４　３次元出来形管理等の施工管理  ※小規模土工、作業土工（床掘）は対象外 | □ | 出来形管理  （注３  □面管理  □断面管理 |  | １ 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理技術  ２ 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理技術  ３ ТＳ等光波方式を用いた出来形管理技術  ４ ТＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理技術  ５ ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理技術  ６ 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理技術  ７ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理技術  ８ 施工履歴データを用いた出来形管理技術  ９ モバイル端末を用いた出来形管理技術  １０ その他の３次元計測技術を用いた出来形管理技術  （ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　）  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い  ※「１　３次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い |
| □ | 品質 |  | １ TS・GNSSを用いた締固め回数管理技術  ※土の締固作業が工事内容に含まれない場合は、本技術は本表の対象外とする  ※現場条件等から、TS・GNSSによる締固め回数管理技術の実施が適さないと判断される場合は、従来手法（砂置換法､ＲＩ等）で管理することを認める |
| □ | ５　３次元データの納品 | ― | | | |

注１）ICT活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注２）ICT施工技術の活用に応じて加点評価の対象とする。

注３）土工1,000ｍ3未満は標準的に断面管理を実施するものとするが、施工現場の環境条件により面的な計測による出来形管理を選択してもよい。